

2021年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1493600256	事業の開始年月日	平成25年10月1日
		指定年月日	平成25年10月1日
法人名	株式会社カスタムメディカル研究所		
事業所名	グループホームいちご苑		
所在地	(245-0018) 横浜市泉区上飯田町3988-6		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	15名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自立支援に力を入れています。各自出来る事を出来る範囲で自分の事は自分でやって頂くよう心がけています。日常では洗濯物干し たたみ 食器洗い等職員と一緒にしています。昼間好きな時間好きな時庭に出てベンチに座り外気浴を楽しまれたり 草むしり 畑いじりなど利用者自ら見つけ楽しまれております。またレクリエーションにも力を入れ壁面づくりなど小さい物から大きな作品を作っています。コロナ禍の中行動は制限されていますがコロナが落ち着いた際は毎年恒例の日帰りバス旅行 外食を実施していきます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年10月23日	評価機関 評価決定日	令和3年11月24日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、相模鉄道いずみ野線の「いずみ野」駅、または、横浜市営地下鉄ブルーライン「立場」駅からバスで5分程のところに立地し、周囲に障害者グループホームやブルーベリー畑などがあります。玄関が向き合った木造造りの平屋と2階建ての建物です。エレベーターはありませんが、日々の暮らしの中の階段昇降が利用者の脚力維持に活かされ、自立度の高い利用者が、自由にユニット間を行き来しています。

<優れている点>

職員の育成に力を入れており、研修や勉強会を行い、内部研修後に穴埋め問題やテストをして理解を深めるなどの取り組みをしています。今後は資格取得に際し法人による受講料や交通費などを支援することも検討しています。利用者はアルコール（消毒）大臣、パン注文担当、下膳などの役割を持って食事に係わっています。敬老会、誕生日会などの行事のほか、新型コロナ禍で外食の行事を控えたため毎月出前をとる事に変更し、更に食事を楽しめるようにしています。排泄パターンを把握しトイレでの排泄を促しています。利用者の様子や行動から判断して、職員の適切な支援があり布パンツに切り替えた改善事例もあります。

<工夫点>

新型コロナ禍で外出などができない代わりに職員の意見で、レクリエーションの充実を図る目的でレクリエーションの専門雑誌を購入し活用しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームいちご苑
ユニット名	いちご

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼で出勤者全員で基本理念を読み意識づけ実践している	事業所の基本理念を朝礼で唱和し共有しています。管理者は、間違っているケアを行っていると感じた時などに、理念に立ち戻るよう職員に伝えていきます。明るく元気で快適な生活を送るサービスの提供を目指し、実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナ感染症対策により地域の交流はありませんが挨拶程度です コロナが終息した時は地域と交流を兼ね茶話会など計画して行きたいと思っている	町内会に加入し、夏祭りへの参加を予定していましたが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となっています。事業所の茶話会に障害者施設の人が来訪し交流しています。散歩で出会う人と挨拶を交わして地域の人々と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為地域の交流は中止となっていますが近隣の障害施設の方々と交流を図っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在コロナ感染対策により書面による報告となっています 書面の中でホーム内の行事や事故報告 対策 ご意見を聞かせて頂いている	今年度の運営推進会議は、書面開催で奇数月に実施し、メンバーに「開催状況報告書」を送付しています。報告書に活動状況に関する意見を求める欄を設けています。参加者からのねぎらいの言葉はありますが、意見等は寄せられていません。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市 区の研修に参加しています 区の担当者に利用者のご様子や助言を頂きながらサービスの向上に努めている	オンライン研修の情報や必要に応じた電話連絡の際に、高齢・障害課の職員に事業所の状況などを伝え、相談しやすい関係を保っています。生活保護費受給者複数名を受け入れており、和泉区以外の生活支援課の職員とも協力関係を築いています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけず出たい時にいつでも出れる様にしている。利用者が外に出る時は「行ってくるね」と職員に声をかけてくれます。また外に行く姿を見かけたら「行ってらっしゃい」と声をかけます。3ヵ月1回身体拘束委員会と年1回ホーム内で研修を実施している。	指針を整え、3ヶ月に1回開催の「身体拘束虐待廃止委員会」や年1回開催の「身体拘束高齢者虐待」の研修を通して、身体的拘束や虐待をしないケアの確認をしています。急な外出の様子をみかけた際は、玄関先での行動を見守ったり、職員と一緒に外に出ています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員のなにげない声掛けが虐待に繋がる事をミーティングの場またその時に強い口調で話している時はお互いに言える関係を構築する	高齢者虐待防止について研修などで学んでいます。「身体の虐待・拘束、言葉・心理的虐待、性的虐待、介護放棄、経済的虐待などの行為を行いません」と示した行動指針を掲示し、虐待を見過ごすことのないよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を定期的におこなっている。家族様がいない利用者には相談した上で後見人制度を活用する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時契約書 重要事項説明書を説明しながら承諾を頂いている。改定時には承諾書を頂き不明な所は説明 理解しサインを頂いている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様は定期的にお電話やお手紙を行いケアプラン時には必ず利用者の近況報告を電話でお伝えしている。利用者から訴えがある時はその場で話を聞き解決方法を模索し運営推進会議ユニット会議にて反映している	毎月「生活状況をお知らせします」や「いちご便り」を家族などに送付して利用者の様子を伝えていきます。新型コロナ禍で来訪を中断している間は「自由に編み物をさせてください」等の家族の希望を電話で把握し、反映しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談を行い職員の意見を聞いている。業務内にも声を掛けながら話しやすい環境を作り意見を聞く	管理者は、年1回の個人面談や日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いています。キャリアアップの希望や職員の意見を反映し、レクリエーションの充実を図る目的でレクリエーションの専門雑誌を購入し活用しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格が取得できるように支援し取得後は本人の意向を重視している。職員の持っている力を発揮できるように細やかな声にも耳を傾け職員が納得やりがいが持てるような環境作りの構築を図っている	管理者は日常業務の中で職員個々の努力や実績を把握しています。法令遵守に係わる職員の健康診断や休憩できる環境を整えています。資格取得に際し受講料や交通費などの支援があります。多数の職員が介護福祉士などの資格を取得しています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍でホーム外の研修には参加できていませんがホーム内での研修を行いキャリアパスを実践している	キャリアパス制度があります。勉強会や外部研修等を通して職員の育成に取り組んでいます。研修後に穴埋め問題やテストを実施して理解を深めています。年度の研修受講状況を把握する書面を作成し、職員に受講を促しています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で交流は出来ていませんが落ち着いたら行って行く		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前 利用者と面談しご本人の意向不安を取り除けるようお話しを聞きながらコミュニケーションに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族様の苦労や今までのサービスの利用状況など これまでの経緯について聞くようにしている 聞く事で次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時本人やご家族の思い状況等確認し改善に向けた支援の提案 相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側 支援される側という意識を持たず お互いが協力しながら穏やかな生活が出来るように 場面づくりや声掛けを行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め家族と同じような思いで利用者を支援していることを伝えている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人等に訪問して頂けるように支援をしていますがコロナ感染予防で面会は控えさせていただいています その中で電話や手紙での連絡を取り持つ等 つながりを継続できる支援をしています	新型コロナ禍では状況を判断しながら中断や再開をして関係維持を支援しています。電話や手紙の取り次ぎ支援をして関係を保っています。緊急事態宣言解除後に利用者が職場の元同僚と面会をしています。入居前からの生活習慣で新聞を読む方がいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聞いています レクリエーションを通じ皆さんと楽しく過ごせる環境づくりに努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの暮らしが継続できるよう生活環境支援 サービスについて状況提供に努めています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がどのように暮らしたいかを理解する為これまでの生活歴 既往歴などを把握しアプローチしながら希望意向に努めている	日々の関わりの中で「パンが食べたい」などの意向を把握し献立に反映しています。意向の把握が困難な場合は、生活歴や利用者の表情から職員が汲み取っています。把握した情報は個人詳細情報ノートに記して共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の生活歴やライフスタイル個性などを大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シート 個人ノート 申し送り で利用者の状態を確認し1日を穏やかに自分らしく生活して頂けるよう些細な事でも記録している 自分の事は自分で出来るようにお皿洗い 洗濯物干しなど見守りを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング カンファレンスで職員で話し合いご家族 医療機関と連携しながら介護計画を作成している	ケアプランは長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月で作成しています。毎月ユニット会議の中でケース検討をしているほか、必要に応じ、随時ミニカンファレンスを行いながら、本人の現状に即した支援につながるケアプランになるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の変化など24時間シート 個人ノート 日報などで情報を共有し職員と常にミニカンファレンスを行い実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	緊急時の対応や通院など利用者に必要な対応 支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍もあり地域資源を有効に生かす事が出来ていない 地域の行事など参加し利用者が豊かな気持ち 喜びが持てる様支援をしています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診及び必要な医療の付き添いを行い普段の様子や変化を伝えている また利用者自身の不安を 自身が伝えられない様なら代弁の支援を行っている	全利用者が事業所の協力往診医をかかりつけ医としています。通院は、家族対応のほか、職員の付き添いも柔軟に対応しています。毎週看護師の訪問があり、健康管理に役立てています。医療に関することは「受診ノート」で共有しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師週1回訪問し利用者の様子排便等伝える 必要に応じ浣腸 腹部マッサージを実施し改善している 看護記録に記載し職員が周知できるように受診ノートを活用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は介護サマリーで既往歴 ADL等で伝えている 常に利用者の様子を聞きながら病院関係者と連携しながらいつでも退院ができるようにしている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者や家族様の意向を踏まえ医療関係者と密になり安心して納得した最後が迎えられるように取り組んでいる	「看取りに関する指針」があり、入居時に説明をしています。終末期と医師が判断した場合には、再度話し合い、方針を共有しています。看取りケアを行うにあたっては必ず研修を行い、職員間の意識の共有を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	行政関係者や消防署の協力を得て救急対応や蘇生など研修を受けている現在はコロナ禍で自粛であります但し自主訓練など計画し定期的に行っていく		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練 避難経路など確認し災害や地震が起きても慌てず避難誘導訓練を定期的に行っている	今年度5月は自主避難訓練を実施しています。11月は消防署に協力依頼をする予定です。個別の誘導方法を居室入口に示すことをしています。地域の避難場所まで歩いてみる検討をしています。備蓄はリストに基づき保管管理をしています。	水や食料品の備蓄は3日分程度の確保及び、賞味期限の適切な管理が期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の気持ちを大切にしている さりげないケアを心掛け自己決定しやすい環境づくり声掛けに努めている	事業所理念の中に「人格の尊重」があるほか、「言葉遣いに気をつける」を目標としています。認知症ケアや人権擁護の内部研修を定期的に行うことでも理解や意識を高め、利用者本人が自分の意思や判断で行動ができるよう支援をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせて利用者が答えやすく 選びやすいような働きかけをしている 時には筆談し利用者が自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースを大切にし それに合わせた対応を心掛けている その日の体調や様子を見ながら 利用者の希望を訪ねたり 相談しながら過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の天候等に合わせ声掛けをしている 2ヶ月に1回訪問美容がこられ好きな髪型 毛染め パーマを利用者の希望通りにしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事中は黙食の為お話しは出来ませんがレクの時間を活用し食べたいものを聞いている 週に1回食べたいパンを利用者同士が注文を順番に聞く担当をしている	利用者はアルコール（消毒）大臣、パン注文担当、下膳、食器洗いなどさまざまな役割を持っています。七夕、敬老会、誕生日会といった行事のほか、コロナ禍が続き、外食を控えていることから、毎月出前をとることで食がさらに楽しめるようにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の体調や毎食の摂取量と水分量を24時間シートに記録し把握している。入れ歯の状態に応じて1口大や隠し包丁などを入れ料理を食べやすいよう工夫し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後洗面所で歯磨き等口腔ケアを行っている。口腔状態や利用者の力に応じ訪問歯科から指導を受けている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	気持ちよく排泄して頂けるようにトイレ周りの清潔に配慮している。利用者の24時間シートに排泄パターンを記録しトイレでの排泄ができるよう声掛け誘導を行っている	支援の必要がある場合は24時間シートで排泄パターンを探り、トイレ誘導や声かけをしています。利用者の様子や行動から判断し、布パンツに切り替えた後、職員の適切な支援もあり、失敗がほぼなくなった改善事例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳又はヤクルトを提供している。往診時又訪問看護日などお腹の状態を確認しながら必要であれば看護師による腹部マッサージを行っていただいている。毎日の体操と適切な水分補給を行い排泄パターンと日々の記録を行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の順番や利用者の状態などに合わせ柔軟に対応している。端午の節句冬至など季節で湯船に入れたり入浴剤で香りなどを楽しんで頂けるようしている	週2回の入浴を基本としていますが、状況に応じて柔軟に対応しています。介護度が高い場合も職員2名で介助し、湯舟で十分に温まってもらっています。湯加減の好みに対応しているほか、入浴剤の香りも楽しみの一つです。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。また一人ひとりの体調や表情、希望等を考慮してゆっくりと休息がとれるよう支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい薬情をいつでも見れるようにしている。薬のセット時定錠剤の確認を複数人で行っている。薬の処方や用量が変更された時は利用者の様子を注意深く観察し些細な事も記録を行っている。看護職員や協力医療との連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者が出来そうなお手伝いをお願いし職員から感謝の言葉を伝えるように心掛けている。コロナ禍で外出には行けていませんが遠出の外出や地域の行事参加等を利用者と相談しながら行っていく。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の状況で外出は出来ませんが近所の散歩を行っている。利用者の行きたい所など希望があった際はコロナが落ち着いた時行けるようにしていく。	玄関先のベンチで寛ぐ、草むしりをするなど利用者自ら楽しんでます。散歩のほか、混雑しない時間帯を選んで買い物にも行っています。バス旅行、あやめ祭り、ミカン狩り、つるし雛見学など活発だった外出行事はコロナ収束後に再開予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事務所で管理していますがバス旅行の時は利用者にお金を渡し好きな物を買って頂けるように支援をしている。コロナ禍で行けていませんが落ち着いた頃には支援していきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年ご家族の方に利用者から手紙や年賀状を出せるようにしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関の横には折り紙で折ったお花を季節ごとに飾っています 気持ちよく生活を送れるように衛生面では気を使い汚れていた掃除を行うようにしています	自立度の高いなみきユニットの利用者は2階の居室のほか、隣の建物のいちごユニットを自由に行き来しています。両ユニットともリビングに和室があり、寛ぎの場になっています。ソファに新聞やテレビのリモコンが無造作に置かれた光景から、ありふれた日常生活のひとコマが窺えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に和室でくつろいだり廊下で日光浴を楽しめるスペースがあります 状況に応じ模様替えをしたりと思いいい過ごせるよう考えています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を変えることなく いつまでも使える様利用者 ご家族と相談しながら できるだけ変えないよう取り組んでいる	居室にテレビ、仏壇、辞書、ぬいぐるみなど馴染みの品々を持ち込んでいます。自分の居室の雑巾がけ、趣味の縫物などしながら思い思いに過ごすこともあります。居室担当職員が中心に整理整頓、衣類の入れ替え、備品の補充など支援をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯干し たたみ 食器洗い等おこなっている またその日の担当を付けパンの注文を紙に書いて頂き職員に伝えたりご飯前に消毒液を持って行く担当大臣を付け楽しく生活を送れるよう工夫している		

事業所名	グループホームいちご苑
ユニット名	なみき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎日の朝礼で出勤者全員で基本理念を読み意識づけ実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナ感染症対策により地域の交流はありませんが挨拶程度です コロナが終息した時は地域と交流を兼ね茶話会など計画して行きたいと思っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍の為地域の交流は中止となっておりますが近隣の障害施設の方々と交流を図っている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現在コロナ感染対策により書面による報告となっております 書面の中でホーム内の行事や事故報告 対策 ご意見を聞かせて頂いている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市 区の研修に参加しています 区の担当者に利用者のご様子や助言を頂きながらサービスの向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に鍵をかけず出たい時にいつでも出れる様にしている。利用者が外に出る時は「行ってくるね」と職員に声をかけてくれます。また外に行く姿を見かけたら「行ってらっしゃい」と声をかけます。3ヵ月1回身体拘束委員会と年1回ホーム内で研修を実施している。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員のなにげない声掛けが虐待に繋がる事をミーティングの場またその時に強い口調で話している時はお互いに言える関係を構築する		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会を定期的におこなっている。家族様がいない利用者には相談した上で後見人制度を活用する		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時契約書 重要事項説明書を説明しながら承諾を頂いている。改定時には承諾書を頂き不明な所は説明 理解しサインを頂いている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族様は定期的にお電話やお手紙を行いケアプラン時には必ず利用者の近況報告を電話でお伝えしている 利用者から訴えがある時はその場で話を聞き解決方法を模索し運営推進会議ユニット会議にて反映している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個人面談を行い職員の意見を聞いている 業務内にも声を掛けながら話しやすい環境を作り意見を聞く		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格が取得できるように支援し取得後は本人の意向を重視している 職員の持っている力を発揮できるように細やかな声にも耳を傾け職員が納得やりがいが持てるような環境作りの構築を図っている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍でホーム外の研修には参加できていませんがホーム内での研修を行いキャリアパスを実践している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍で交流は出来ていませんが落ち着いたら行って行く		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前 利用者と面談しご本人の意向不安を取り除けるようお話を聞きながらコミュニケーションに努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	これまでの家族様の苦労や今までのサービスの利用状況など これまでの経緯について聞くようにしている 聞く事で次の段階の相談につなげている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時本人やご家族の思い状況等確認し改善に向けた支援の提案 相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	支援する側 支援される側という意識を持たず お互いが協力しながら穏やかな生活が出来るように 場面づくりや声掛けを行っている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め家族と同じような思いで利用者を支援していることを伝えている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人等に訪問して頂けるように支援をしていますがコロナ感染予防で面会は控えさせていただいています その中で電話や手紙での連絡を取り持つ等 つながりを継続できる支援をしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個別に話を聞いています レクリエーションを通じ皆さんと楽しく過ごせる環境づくりに努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	これまでの暮らしが継続できるよう生活環境支援 サービスについて状況提供に努めています		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者がどのように暮らしたいかを理解する為これまでの生活歴 既往歴などを把握しアプローチしながら希望意向に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の生活歴やライフスタイル個性などを大切にしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	24時間シート 個人ノート 申し送り で利用者の状態を確認し1日を穏やかに自分らしく生活して頂けるよう些細な事でも記録している 自分の事は自分で出来るようにお皿洗い 洗濯物干しなど見守りを行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリング カンファレンスで職員で話し合いご家族 医療機関と連携しながら介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の変化など24時間シート 個人ノート 日報などで情報を共有し職員と常にミニカンファレンスを行い実践に繋げている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	緊急時の対応や通院など利用者に必要な対応 支援を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍もあり地域資源を有効に生かす事が出来ていない 地域の行事など参加し利用者が豊かな気持ち 喜びが持てる様支援をしています		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診及び必要な医療の付き添いを行い普段の様子や変化を伝えている また利用者自身の不安を 自身が伝えられない様なら代弁の支援を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護師週1回訪問し利用者の様子排便等伝える 必要に応じ浣腸 腹部マッサージを実施し改善している 看護記録に記載し職員が周知できるように受診ノートを活用している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は介護サマリーで既往歴 ADL等で伝えている 常に利用者の様子を聞きながら病院関係者と連携しながらいつでも退院ができるようにしている		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用者や家族様の意向を踏まえ医療関係者と密になり安心して納得した最後が迎えられるように取り組んでいる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	行政関係者や消防署の協力を得て救急対応や蘇生など研修を受けている現在はコロナ禍で自粛であります自主訓練など計画し定期的に行っていく		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練 避難経路など確認し災害や地震が起きても慌てず避難誘導訓練を定期的に行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の気持ちを大切にしている さりげないケアを心掛け自己決定しやすい環境づくり声掛けに努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせて利用者が答えやすく 選びやすいような働きかけをしている 時には筆談し利用者が自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者のペースを大切にし それに合わせた対応を心掛けている その日の体調や様子を見ながら 利用者の希望を訪ねたり 相談しながら過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その日の天候等に合わせ声掛けをしている 2ヶ月に1回訪問美容がこられ好きな髪型 毛染め パーマを利用者の希望通りにしている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事中は黙食の為お話しは出来ませんがレクの時間を活用し食べたいものを聞いている 週に1回食べたいパンを利用者同士が注文を順番に聞く担当をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者の体調や毎食の摂取量と水分量を24時間シートに記録し把握している 入れ歯の状態に応じて1口大や隠し包丁などを入れ料理を食べやすいよう工夫し提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後洗面所で歯磨き等口腔ケアを行っている 口腔状態や利用者の力に応じ訪問歯科から指導を受けている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	気持ちよく排泄して頂けるようにトイレ周りの清潔に配慮している 利用者の24時間シートに排泄パターンを記録しトイレでの排泄ができるよう声掛け 誘導を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	牛乳又はヤクルトを提供している 往診時又訪問看護日などお腹の状態を確認しながら必要であれば看護師による腹部マッサージを行っていただいている 毎日の体操と適切な水分補給を行い排泄パターンと日々の記録を行っている		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴の順番や利用者の状態などに合わせ柔軟に対応している 端午の節句 冬至など季節で湯船に入れたり入浴剤で香りなどを楽しんで頂けるようしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている また一人ひとりの体調や表情 希望等を考慮してゆっくりと休息がとれるよう支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	新しい薬情をいつでも見れるようにしている 薬のセット時定錠剤の確認を複数人で行っている 薬の処方や用量が変更された時は利用者の様子を注意深く観察し些細な事も記録を行っている 看護職員や協力医療との連携を図れるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者が出来そうなお手伝いをお願いし職員から感謝の言葉を伝えるように心掛けている コロナ禍で外出には行けていませんが遠出の外出や地域の行事参加等を利用者と相談しながら行っていく		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の状況で外出は出来ませんが近所の散歩を行っている 利用者の行きたい所など希望があった際はコロナが落ち着いた時行けるようにしていく		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には事務所で管理していますがバス旅行の時は利用者にお金を渡し好きな物を買って頂けるように支援をしている コロナ禍で行けていませんが落ち着いた頃には支援していきます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年ご家族の方に利用者から手紙や年賀状を出せるようにしている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関の横には折り紙で折ったお花を季節ごとに飾っています 気持ちよく生活を送れるように衛生面では気を使い汚れていた掃除を行うようにしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自由に和室でくつろいだり廊下で日光浴を楽しめるスペースがあります 状況に応じ模様替えをしたりと思いいい過ごせるよう考えています		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物を変えることなく いつまでも使える様利用者 ご家族と相談しながら できるだけ変えないよう取り組んでいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯干し たたみ 食器洗い等おこなっている またその日の担当を付けパンの注文を紙に書いて頂き職員に伝えたりご飯前に消毒液を持って行く担当大臣を付け楽しく生活を送れるよう工夫している		

2021年度

事業所名 グループホームいちご苑

作成日： R3 年 12 月 4 日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水や食料品の備蓄は2日分程度なので15名～17名3日分の備蓄確保が必要	水や食料品の備蓄は3日分程度確保をする	災害非常食品の購入	1ヶ月
2	19	コロナ過の為ご家族様と面会が出来なく自分たちを忘れてしまうのか心配されている	面会中止ではなく第6波も配慮しながら徐々に緩めていく	面会連絡をして頂き1日2組様で換気を行いながら10分～15分としていく 当日の体温 アルコール消毒 体調の有無を記載されて頂く	1ヶ月
3	49	コロナの心配もあり慎重のあまり外出に行けていない	入居者様が1ヵ月1回程度買い物等の外出に行けるようにする	1ヵ月1回企画書を作成し苑車で出かけ買い物 ティータイムが出来る様支援をしていく	12ヶ月
4	36	人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけがスタッフの方による差が激しいとご家族様からの評価を頂いた	事業者の基本理念の徹底と認知症ケアの研修を行う	勉強会を行い実践し評価をご家族様の声を頂く 方法として夏 冬独自アンケートを年2回行い改善点などがあつた場合速やかに対策を行っていく	12ヶ月
5					ヶ月